

【お茶】

生葉管理

摘採した生葉は、長時間かごや袋につめて茶園に放置すると、品質が悪くなりますので注意しましょう。(日中の気温が高い日等は特に)

更新

樹高が高くなりすぎた園や極端な芽数型の園は、深刈りや中切り更新をしましょう。

【キウイフルーツ】*下線部は重要防除です。必ず防除しましょう。

病害虫防除

5月上旬 花腐細菌病 環状はく皮 (樹勢が低下している場合は実施しない)

蕾白化期(がく割れ) 5月1日頃に主幹に4~5.5mm幅で行いましょう。

5月中旬 かいよう病・花腐細菌病 コサイド3000 2,000倍 50g/100ℓ

(開花前) (クレフノン200倍加用 500g/100ℓ 薬害軽減のために加用する)

(かいよう病は収穫後から果実肥大期まで、花腐細菌病は休眠期~叢生期(新梢長約10cm)まで)

○カガラムシ類・蚜化メコバイ アプロードエスフロアブル 1000倍 収穫前日 1回 100ml/水100ℓ

摘 蕾

5月上旬~中旬 早期に側花や変形花を除去し、受粉効率と初期肥大を良くさせます。

強風を考慮して花数の調整をしましょう。

人工授粉

5月中旬~下旬 石松子を使った受粉 5~10倍 開花2~3日までに受粉しましょう。

溶液受粉 250~300倍 希釈してから2時間以内に使い切りましょう。

【温州みかん】*下線部は重要防除です。必ず防除しましょう。

病害虫防除

5月中旬~下旬

○灰色かび病・そうか病 フロンサイドSC 2,000倍 収穫30日前 1回 50ml/水100ℓ

又は ストリートライフフロアブル 2,000倍 収穫14日前 3回 50g/水100ℓ

○コアオハナムグリ モスピラン顆粒水溶剤(劇) 4,000倍 3回 収穫14日前 25g/水100ℓ

そうか病多発園ではフロンサイドSCを散布しましょう。*かぶれには注意しましょう。

灰色かび病防除は満開から落弁期にかけて散布する(多発園は2回)。 フロンサイド使用回数1回

訪花害虫多発園では2回以上散布する(3分咲きと満開時期)。

夏肥施用

5月下旬 特選みかん配合655 200kg/10a (吸収率を高める為、6月中旬と2回に分けると効果的)

施肥後、軽く中耕します。反射シート被覆のため秋肥が施用できない場合は夏肥を多めにしましょう。

葉面散布 樹勢が低下している樹では尿素600倍を散布し、樹勢の回復を図りましょう。

【中晩柑】*下線部は重要防除です。必ず防除しましょう。

病害虫防除

5月上旬~5月中旬

○灰色かび病 ストリートライフフロアブル 3,000倍 収穫14日前 3回 33g/水100ℓ

又はフロンサイドSC 2,000倍 収穫30日前 1回 50ml/水100ℓ

※灰色かび病防除は満開から落弁期にかけて散布します(多発園は2回)

○アハカダグリ・ケンカイ類 モスピラン顆粒水溶剤(劇) 4,000倍 収穫14日前 3回 25g/水100ℓ

湘南ゴールド・はるみ(かいよう病に弱い品種)

5月上旬~5月中旬

○かいよう病 コサイド3000 2,000倍 50g/水100ℓ

(クレフノン 200倍 500g/水100ℓ 薬害軽減のために加用する)

※マシン油散布とは2週間以上あける

湘南ゴールド、はるみ、レモンは、かいよう病に罹病しやすいので薬剤による防除をしましょう。

栽培管理・樹勢強化

葉面散布 5~8月に不知火・はるみの樹勢強化を目的に尿素600倍の葉面散布を行いましょう。

はるみは、着花量が多いと樹勢の低下につながります。

はるみ、不知火は上部1/3~1/4を摘蕾や早期摘果をし、樹勢の強化を図りましょう。

——【レモン】*下線部は重要防除です。必ず防除しましょう。——

病害虫防除

5月（開花盛期～落弁期）

○かいよう病 コサイド3000 2,000倍 50g/水100ℓ

又はイデクリン水和剤 500倍 200g/水100ℓ

（クレフノン 200倍 500g/水100ℓ 薬害軽減のために加用する）

○灰色かび病・そうか病 ストビ・ドライワブル 2,000倍 50g/水100ℓ 収穫14日前 3回

○チャノホコリダニ・ミカンサビダニ イオウフロアブル 400倍 250ml/水100ℓ 発生初期

○コアオハナムグリ モスピラン顆粒水溶剤 劇 4,000倍 25g/水100ℓ 収穫14日前 3回

※マシン油との散布間隔は14日以上空ける。イデクリン水和剤とイオウフロアブルはマシン油との14日以内の近接散布は行わない。

——【う め】*下線部は重要防除です。必ず防除しましょう。——

病害虫防除

農薬の収穫前日数を遵守しましょう。

5月上旬 ○黒星病・すす斑病 スコア顆粒水和剤 3,000倍 収穫前日 3回 33g/水100ℓ

5月中旬～下旬 ○黒星病・すす斑病 パレード15フロアブル 2,000倍 収穫前日 2回 50ml/水100ℓ

収 穫

梅酒用：大きい果実から順次収穫し収穫後の直射日光は避けましょう。

漬梅用：青みが抜けた大きいものから順次収穫しましょう。

——【水 稲】——

育苗箱施薬剤

育苗箱施薬は本田への防除軽減のために必要な防除です。必ず散布しましょう。

※下記の二つの育苗箱施薬から一剤選択して、防除しましょう。

・エバーゴルフフォルテ箱粒剤

播種時（覆土前）～ 移植当日 1回 育苗箱1箱当たり50g

※「いもち病」や初期の害虫、「紋枯病」に高い効果を発揮します。浸透移行性に優れ、長い残効性があります。育苗箱処理でその後の防除が省け、防除回数の低減が可能です。

対応病害虫	・イネミズゾウムシ ・イネドロオイムシ ・ウンカ類 ・ツマグロヨコバイ
	・いもち病 ・紋枯病 ・白葉枯病 ・内穎褐変病

・ブーンゼクテラ箱粒剤

播種時（覆土前）～ 移植当日 1回 育苗箱1箱当たり50g

対応病害虫	・イネミズゾウムシ・ウンカ類・ニカメイチュウ・イネツトムシ
	・いもち病・内穎褐変病

（注）育苗箱施薬剤と除草剤は区別して保管しましょう。

病害虫防除 水田入水後、貝の活動が活発になり始めたら散布しましょう。被害発生前に早めに散布するようにしましょう。

○スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）

スクミノン 1～4kg/10a 湛水散布 （収穫60日前まで 2回以内）

スクミンバイト3 2～8kg/10a 湛水散布 （使用回数・使用時期制限なし）

（スクミンバイト3の使用量登録が変わりましたので、ご注意ください。）

基肥一発型肥料

速効性肥料と緩効性肥料が入った、追肥のいらない省力型肥料です。

生育に合わせ窒素成分が供給されるため、利用効率が高まります。側条施肥にも適しています。

※ただし、天候や生育状況により追肥が必要になる場合もあります。

てまいらず464ネオ・スーパーナイスワン 30～40kg/10a

（栽培条件に応じて適宜増減してください）

キヌヒカリ、さとじまん、はるみ、てんこもりに使用できます。